

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立細谷小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	75人	算数	75人	理科	75人
第5学年	国語	70人	算数	70人	理科	70人

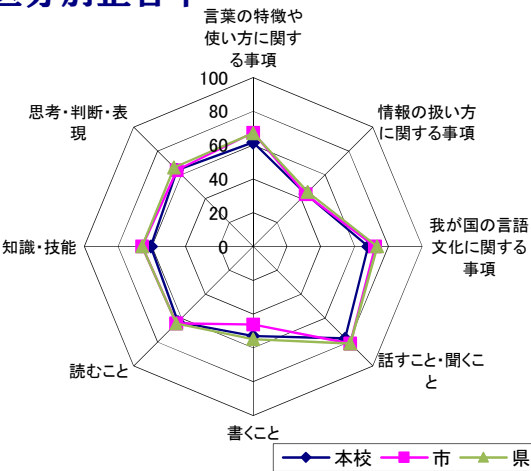
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	61.6	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	44.0	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	68.0	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	77.0	81.2	81.2
	書くこと	53.0	46.2	54.9
	読むこと	63.0	64.3	64.5
観点	知識・技能	60.6	65.7	65.7
	思考・判断・表現	64.0	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

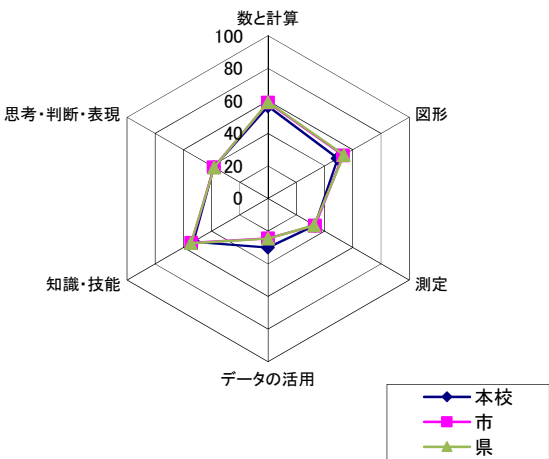
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字を書く設問では4問中3問、「主語と述語の組合せとして適するものを選ぶ」設問の正答率が、県の平均正答率を上回った。 ●第3学年に配当されている漢字について、読みは県の平均正答率を下回った。	・新出漢字の指導では、繰り返し練習したりAIDリルを活用したりして、定着を図る。また、既習漢字においては他教科や日記指導でも積極的に使えるように指導していく。 ・国語の授業において、文章を読むときには主語と述語の関係を意識して読むよう、引き続き指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	●国語辞典の使い方についての設問の正答率が44.0%と、県の平均正答率を1.7ポイント下回った。	・国語辞典の使い方を再度指導したり、授業の中で分からない言葉は積極的に国語辞典を使って調べる活動を取り入れたりすることで、国語辞典を使う意義を学べるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	●「漢字のへんやつくりを理解している」設問の正答率は68.0%と、県の平均正答率を5.4ポイント下回った。	・新出漢字を学習する際には、読み方や書き方だけでなく、漢字のへんやつくりにも注目させながら指導していく。また、既習漢字を使って、へんやつくりの仲間分けなども、授業で取り入れる機会を設けていく。
話すこと・聞くこと	○「話し手が伝えたいことの中心を捉える」設問や「司会者の話し方の工夫を捉える」設問の正答率は、県の平均正答率と同等だった。 ●「司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめる」設問の正答率は68.0%と、県の平均正答率を8.2ポイント下回った。	・話を聞く際には、メモを取りながら聞いたり、話の中心を意識して聞いたりすることができるように指導していく。 ・授業の中で、理由を挙げながら自分の考えを発表する場面を意図的に設け、話す機会を増やしていく。 ・朝の会や帰りの会、学級活動等で、スピーチや話し合い活動を積極的に取り入れ、表現力が高まるように指導していく。
書くこと	○「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く」設問の正答率は57.3%と、県の平均正答率を1.1ポイント上回った。 ●「段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書く」設問の正答率は37.3%と、県の平均正答率を5.6ポイント下回った。	・引き続き自主学習で日記を取り入れ、文章を書くことに苦手意識をもたないような指導をしていく。日記を書く際には、文字数を指定したり2段落構成にしたりするなど、決められた条件で書くことができるように指導を工夫する。
読むこと	○「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える」設問の正答率は92.0%と、県の平均正答率を1.1ポイント上回った。 ●「文章を読んで感じたことや分かったことを共有する」設問の正答率は56.0%と、県の平均正答率を6.5ポイント下回った。	・引き続き、朝の読書タイムや読書週間などを通して、読書の習慣を定着させる。 ・物語文の学習では、登場人物の言葉や動作、表情などから登場人物の気持ちを読み取るように指導していく。 ・説明文を読む際には、意味段落や形式段落を意識し、文章の内容理解につなげていけるよう指導する。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.6	58.9	59.2
	図形	49.3	53.0	53.7
	測定	33.0	33.1	32.6
	データの活用	30.0	24.4	24.6
観点	知識・技能	52.9	54.3	54.7
	思考・判断・表現	38.5	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

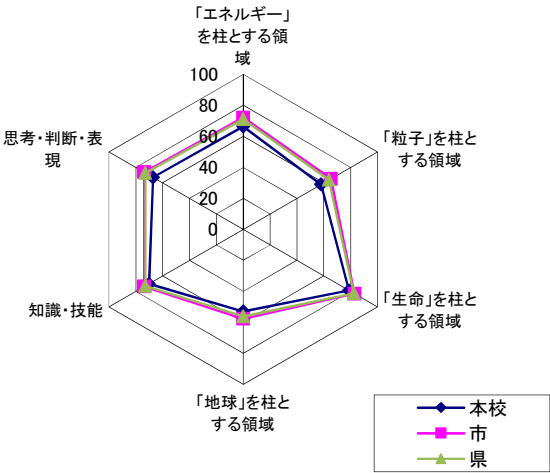
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数のしくみや表し方として正しいものを選ぶ問題では、正答率が89.3%と、県の平均正答率を5.3ポイント上回った。 ●整数－小数第一位の計算では、正答率が41.3%と、県の平均正答率を15.8ポイント下回った。	・大きな数の表し方や分数・小数の仕組みを正しく理解し、繰り上がりや繰り下がりがある計算もできるように、AIドリルや朝のスキルタイムなどを使い、繰り返し学習していく。
図形	○円の性質を利用して正三角形を作図する問題では、正答率が42.7%と、県の平均正答率を2.7ポイント上回った。 ●二等辺三角形になる図を選ぶ問題では、正答率が57.3%と、県の平均正答率を10.8ポイント下回った。	・定規やコンパスによる作図、ひごや紙など具体物を用いた活動を多く取り入れ、図形の意味や性質を、帰納的に理解できるようにする。
測定	○重さが同じになる組み合わせとして、正しいものを選ぶ問題では、正答率が32.0%と、県の平均正答率を5.2ポイント上回った。 ●前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を求める問題では、正答率が28.0%と、県の平均正答率を4.7ポイント下回った。	・自分の身の回りにあるものを、およその見当を付け、計器を用いて測定する経験や、単位の関係を統合的に考察する活動を通して、日常生活と結び付けて指導していく。
データの活用	○棒グラフを読み取り、2番目に多い落とし物の種類を答える問題では、正答率が56.0%と、県の平均正答率を6.5ポイント上回った。 ○示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する問題では、正答率が17.3%と、県の平均正答率を6.7ポイント上回った。	・算数の時間だけでなく、社会科の時間の表やグラフの読み取りなど、様々なデータの読み取りや活用に慣れさせていく。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	66.3	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	58.0	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	78.8	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	52.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	70.1	73.8	72.8
	思考・判断・表現	67.1	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○磁石の性質について問われた設問では、正答率が73.3%と、県の平均正答率を4.9ポイント上回った。 ●日光を集めた時の明るさと温かさについての正答率が37.3%と、県の平均正答率を14.9ポイント下回った。	・正答率が高かった磁石の性質については、実際に磁石に触れたり操作したりする時間を十分に取り入れて学習に取り組んだ。今後も丁寧に実験に取り組ませていく。 ・日光を集めたところの大きさについての理解が十分ではなかったので、十分な実験とともに結果を振り返ったりデジタル教材を取り入れたりして理解の定着を図っていく。
「粒子」を柱とする領域	○形を変えても重さは変わらないことについて問われた設問では、正答率が84.0%と、8割以上の児童が理解をしていた。 ●同じ体積でも物の種類によって重さが違うことについての正答率が32.0%と、県の平均正答率を9.1ポイント下回った。	・実験の際は、予想してから実際に物を持ったり、形を変えてみたりするなど、操作体験を多く取り入れて学習内容の理解を図っていく。 ・一人一台端末等で動画やアニメーションなどを活用して学習内容の習熟、定着を図る。
「生命」を柱とする領域	○植物の芽生えについての設問では、正答率は85.3%と、県の平均正答率を1.4ポイント上回った。 ●昆虫とダンゴムシの体のつくりの違いについての設問では、正答率が57.3%と、県の平均正答率を14.1ポイント下回った。	・本校は自然豊かな環境にあり、昆虫や植物を観察する機会に恵まれている。今後もこの利点を理科の観察・実験に生かしていく。 ・昆虫が苦手な児童について、標本や動画等を用いて興味を持たせるとともに、他の生き物との区別がつくよう体の部分の名称を確かめるなど、正しい知識を身に付けられるようにする。
「地球」を柱とする領域	○方位磁針の正しい使い方についての設問では、正答率が50.7%と、県の平均正答率を7.0ポイント上回った。 ●かげが太陽の反対側にできることについての設問では、正答率が58.7%と、県の平均正答率を10.9ポイント下回った。	・方位磁針の正しい操作については、社会科など他教科との関連を図りながら、これからも活用の機会を増やして理解を定着させていく。 ・太陽と影の関係については、観察だけでなく、一人一台端末等で動画やアニメーションなどを活用して学習内容の習熟、定着を図る。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定割合は75.6%で、県の平均より7.6ポイント高く、学習内容を確実に習得しようとする姿勢がみられる。今後も家庭学習の進め方の指導を行い、基礎基本の定着を図っていききたい。

○「家で、学校やじゅく決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合は69.2%で、県の平均より5ポイント高く、自主的に学ぶ姿勢がみられる。

●「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」の肯定割合は89.7%で、県の平均より5.4ポイント低い。音読・漢字練習・計算問題を中心に宿題を出しているが、4年生の家庭学習の目標時間45分かからずに宿題が終わる児童も見られる。宿題＋自主学習で45分間にしている児童も多く、個人差が見られる。高学年に向けて自主学習に進んで取り組めるよう声をかけていきたい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定割合は82.1%で、県の平均より10.4ポイント高い。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の肯定割合は78.2%と県の平均より13.9ポイント高い。一人一台端末を学校や家庭で効果的に活用することができているといえる。

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合が83.3%と県の平均より7.5ポイント高い。各クラスの学習指導が円滑に進められており、前向きな児童を認め励ます雰囲気があるといえる。

○「学校のきまりを守っている。」の肯定割合が100%で県の平均より5.9ポイント高い。毎月の生活目標や「きらきら細谷っ子生活のきまり」を掲示したり、常時指導をしたりしているので、児童がきまりを意識しながら生活していると思われる。

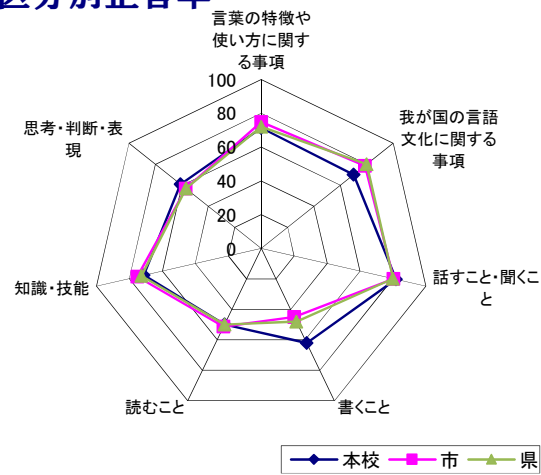
○「自分にはよいところがある」の肯定割合が85.9%で県の平均より2.1ポイント高い。帰りの会での友達のよいところの発表などの活動が、自己有用感・自己肯定感を高めていると思われる。

○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の肯定割合が80.8%で県の平均より6.2ポイント高い。家庭でニュースを見たり朝の会や社会の授業などで、市や県、社会で起こっていることを教師が話したりしていることがきっかけにもなっているのではないかなと思う。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.4	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	70.0	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	81.8	80.4	80.0
	書くこと	62.1	45.1	48.0
	読むこと	50.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	71.3	75.2	72.8
	思考・判断・表現	61.0	57.0	57.0



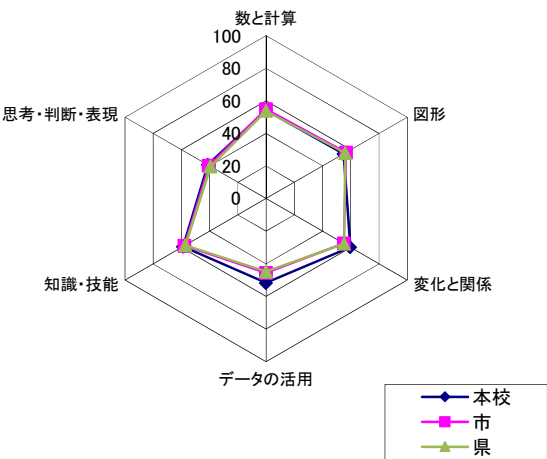
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○4学年に該当されている漢字を書く設問で、正答率が87.1%と、県の平均正答率を16.4ポイント上回った。 ●4学年に該当されている漢字の読みについて、正答率が71.4%と、県の平均正答率を12.8ポイント下回った。 ●様子を表す語句について問う問題では、正答率が87.1%と、県の平均正答率を5.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や授業において、新出漢字を正しく習得する指導を継続するとともに、既習漢字を文章の中で使えるように指導していく。また、熟語として覚えたり、送り仮名を正しく書いたりすることができるように繰り返し指導していく。 ・一人一台端末のAIドリルを積極的に活用する。
情報の扱い方にに関する事項	出題なし。	
我が国の言語文化に関する事項	●慣用句の意味の理解について問う問題では、正答率が70.0%と、県の平均正答率を9.9ポイント下回った。	・慣用句の意味を調べるだけでなく、実際の生活の場面でどんな使われ方をするかを作文するなど、日常で使えるように指導していく。
話すこと・聞くこと	○意見の共通点や相違点に着目して自分の考えをまとめる問題では、正答率が88.6%と、県の平均正答率を5.6ポイント上回った。 ●話し手が伝えたいこと中心を捉えているかについて問う問題では、正答率が82.9%と、県の平均正答率を1.2ポイント下回った。	・話を聞く時には、話し手の伝えたいことや話の中心を意識して聞くことの大切さを指導していく。 ・朝の会のスピーチでは、友達の話を最後まで聞く習慣・態度を身に付けさせる。
書くこと	○アンケートの結果から読み取ったことを1つ目の段落に書く設問では、正答率が65.7%と、県の平均正答率を21.9ポイント上回った。	・70%の児童が指定された長さで文章を書くことができているが、折に触れて文章の構成や文型についての活動を取り入れ、さらなる定着を図っていく。
読むこと	○叙述を基に段落相互の関係を捉えることについて問う問題では、正答率が47.1%と、県の平均正答率を13ポイント上回った。 ●叙述を基に、場面の様子を捉えることについて問う問題では、正答率が60.0%と、県の平均正答率を11.5ポイント下回った。	・物語文を読むときには、場面や登場人物を意識しながら読むことや、説明文を読むときには、文章の中の重要な言葉や文を選び出して読むことなどを繰り返し指導していく。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.1	54.9	53.7
	図形	54.8	56.6	56.1
	変化と関係	59.6	55.1	55.2
	データの活用	51.7	45.5	44.8
観点	知識・技能	58.8	57.8	57.2
	思考・判断・表現	41.4	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

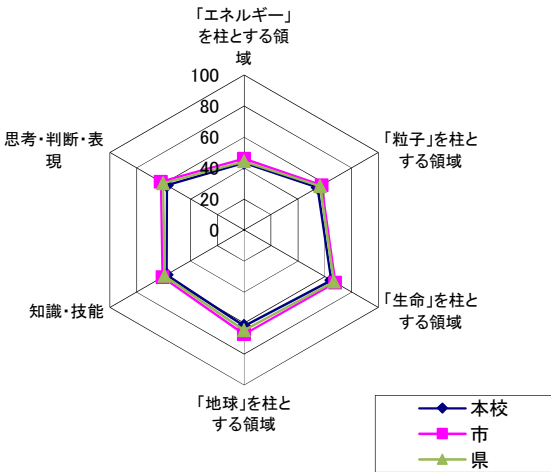
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数直線上の目もりが示す分数を読み取り、仮分数で表す問題は、正答率が67.1%と、県の平均正答率を13.0ポイント上回った。 ●除法の性質を利用した計算のくふうについて説明する問題は、正答率が18.6%と、県の平均正答率と同程度であるが、低い。	・除法だけでなく、四則の性質や計算のきまりについて適宜触れるようにし、定着するよう何度も確認する。 ・今後も朝の学習や家庭学習などで、学んだことを復習することを推奨していく。 ・一人一台端末のAIDリルを積極的に活用する。
図形	○三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ問題は、正答率が51.4%と、県の平均正答率を2.9ポイント上回った。 ●平行四辺形の作図をする問題は、正答率が30.0%と、県の平均正答率を15.7ポイント下回った。	・平行四辺形などの図形の定義や性質を確認したり、三角定規を使って平行や垂直を描く学習の演習を多くしたりして、与えられた条件から作図する思考力を高められるようにしていく。 ・学習したことを朝の学習や家庭学習で復習することを推奨する。
変化と関係	○30円を1とみたとき、90円の大きさを答える問題は、正答率が80.0%と、県の平均正答率を11.7ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題は、正答率が28.6%と、県の平均正答率を14.2ポイント下回った。	・伴って変わる数量を式に表すために、図や式を使って考える方法を何度も例示し、児童自らが図や式に表すことができるように支援していく。
データの活用	○表の数が何の数を表しているかを答える問題は、正答率が80.0%と、県の平均正答率を12.5ポイント上回った。 ●グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する問題は、正答率が11.4%と、県の平均正答率と同程度であるが、低い。	・身近な生活に関連付けた内容を取り上げたり、他教科との関連を図ったりしながら、二次元表の理解を深められるようにする。また、必要な数値を表から導き出す問題などでは、児童同士で説明し合う活動を取り入れて理解を深めていくようにする。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	43.3	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	54.6	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	64.9	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	61.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	57.8	60.8	59.2
	思考・判断・表現	57.6	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○並列つなぎの名称を答える設問では、正答率が67.1%と、県の平均正答率を6.6ポイント上回った。 ●簡易検流計の針の振れ方からわかることを答える設問では、正答率が21.4%と、県の平均正答率を8.8ポイント下回った。	・実験結果を活用する力を付けるために、児童に問題意識をもたせ、予想や仮説を立てることにより見通しをもち観察・実験できるように学習計画を工夫する。 ・実験で使用した道具の名称や、使い方などを十分理解できるように授業の内容を精選する。
「粒子」を柱とする領域	○閉じ込めた空気の手ごたえの変化について答える設問では、正答率が92.9%と、県の平均正答率を8.7ポイント上回った。 ●湯気について選ぶ設問では、正答率が24.3%と、県の平均正答率を6.7ポイント下回った。	・学習環境を整えることにより、日常の様々な自然現象を科学的な目で見るができるようにしていくと同時に実感を伴った理解を図ることを心がける。 ・実験や観察の後に考察を検討し合う場を設け、科学的な視点で根拠を示しながら論理的な説明をし合う活動を多く取り入れる。
「生命」を柱とする領域	○季節の順にならべたイチョウの記録を選ぶ設問では、正答率が44.3%と、県の平均正答率を7.2ポイント上回った。	・身近な事象の正答率が高いことから、積極的に実験や観察に取り組めるように学習環境を整える。 ・デジタル教科書や動画の視聴などを通して、自分たちでは経験できない実験や観察の疑似体験を多くさせることによって知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	○星の色にはちがいがいることを答える設問では、正答率が64.3%と、県の平均正答率を8.6ポイント上回った。 ●気温のはかり方として正しいものを選ぶ設問では、正答率が47.1%と、県の平均正答率を13.2ポイント下回った。 ●蒸発の名称を答える設問では、正答率が45.7%と、県の平均正答率を11.9ポイント下回った。	・今後も実験や観察の後に考察を検討し合う場を設け、科学的な視点で根拠を示しながら論理的な説明をし合う活動を多く取り入れる。 ・実験用具や観察・観測道具の使い方を一つ一つ丁寧に確認しながら活用していく。 ・授業内だけでなく、日々の生活の中で気温を計る経験を積み、理解を深めさせる。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている。」の肯定割合は、100%であり、家庭学習に対する意識は高い。家庭での学習習慣は定着していると考えられるので、引き続き課題内容の充実を図っていききたい。

●一方で、「学校の宿題は、やりたくない内容だ。」の肯定割合は45.7%で県の肯定割合を大きく下回っている。また、「学校の宿題の量はちょうどよいと思う。」の質問に「多い」と回答した割合が45.7%と県の割合を大きく上回っている。さらに「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定割合は45.7%で県の肯定割合を大きく下回っている。指示された内容を学習することはできるが、自分から意欲的に学習を進めようとする意識は低いと推察できる。自主学習の例や自主学習をしてきた児童の内容等を紹介することで、自主的に取り組みやすくなるよう支援していく。

○「人と話すことは楽しい。」「だれに対しても、思いやりの心をもってせつしている。」の肯定割合は、ともに97.1%と高い値であった。これからも、児童相互に思い合える学級づくりに取り組んでいきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを観たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく。)」で3時間以上と回答した割合は41.4%、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか。」で3時間以上と回答した割合は38.6%で、ともに県の値よりも10ポイント以上上回っている。家庭とともに、これら端末の長時間の使用による生活の乱れや依存防止への啓発、より良い活用の方法を指導していく必要がある。

●「国語・社会・算数・理科の学習はしょう来的のために大切だと思いますか。」の肯定割合は高いが、一方で「これらの学習は好きですか。」「これらの学習を実生活で自ら考えたり生活で活用できないか考えたりする。」の肯定割合はすべて県の肯定割合よりも低くなっている。学習内容を実生活と結び付けたり身近な例と関連付けたりすることで、学習したことが実生活で活用できると感じられるような授業展開の工夫をしていきたい。

○「授業を集中して受けている。」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」の肯定割合はともに95%を超えており、授業に臨む基本姿勢はできていると思われる。今後も、互いに認め合い自己有用感を醸成できるような授業づくりに努めていきたい。

宇都宮市立細谷小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自らのよさに気づき、伸ばすことができる指導の工夫	○授業における児童のよさを認め励ます支援の充実 ○自己評価、相互評価を含めた振り返り活動の充実 ○学ぶ意欲を喚起する指導の充実 ○互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫 ○まとめの学習の充実と振り返りの方法の工夫	「先生は学習のことについてほめてくれる」と答えている児童は、4年生が93.6%、5年生が94.3%であり、共に県の平均を約5ポイント上回っている。「自分には、よいところがあると思う」と答えている児童は、4年生が85.9%、5年生が84.3%であり、どちらもわずかではあるが県の平均を上回っている。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」と答えている児童は、4年生が91.0%、5年生が91.4%であった。今後も児童のよさを認め励ます支援に努めながら、「自己有用感」を高めることができる指導を推進していく。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○ねらい、まとめの明示など分かりやすい板書の工夫 ○児童が自ら選択して取り組む学習活動の重視 ○特別支援教育の視点を取り入れた指導の工夫 ○ICTの積極的に活用による学びの深化	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」と答えている児童は、4年生が92.3%、5年生が94.3%であった。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」と答えている児童は、4年生が91.0%、5年生が85.7%と、いずれも県の平均を上回っている。引き続き、学習意欲を引き出す課題提示や教材の工夫などを図り、「分かる・できる授業づくり」の取組を行うようにする。
安心して伝え合い、高め合える学びあいの重視	○「きらきら細谷っ子学習の約束」による学習習慣の形成 ○目的を明確にした学び合いのコーディネート ○話の聞き方・話し方の基本的な学習態度・学習技能の育成	「友達と話し合うとき、友達の話しや意見を最後まで聞くことができる」と答えている児童は、4年生が100%、5年生が98.6%で、いずれも県の平均を上回っている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と答えている児童は、4年生が83.3%、5年生が77.2%で、5年生は、わずかに県の平均を下回っている。これまでも行っていたが、引き続き授業の中で意見を交流させる場を意図的に設けるようにする。
基礎・基本の確実な定着を図る指導と家庭学習の習慣化	○学力調査等を活用した共通実践 ○朝の学習の充実(漢字・計算・読書) ○家庭学習(自学)の進め方の指導と家庭学習の定着化 ○漢字・計算オリンピックの年2回の実施 ○授業のユニバーサルデザイン化	「家で、学校の宿題をしている」と答えている児童は、4年生が96.2%、5年生が95.8%で、県の平均とほぼ同じであった。「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と答えている児童は、4年生が69.2%、5年生が45.7%で、4年生は県の平均を約4ポイント上回っているが、5年生は県の平均を約13ポイント下回っている。宿題をする習慣は身についているが、自主学習については習慣化が十分ではないので、進め方の例示など、意欲が続くような働きかけをしていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章や言葉、式などで表す問題の正答率が低い。無回答も少ない。	○相手、場面、目的などに応じて、自分の考えや解き方の説明などを、文章、言葉、式などで分かりやすく表現する力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図る。また、考えの根拠を明確にし、推測したり表現したりする力をつけるための活動を取り入れる。	・自分の考えを文章で記述する活動を意識して設けたり、自分や友達の考えに理由を加えて話し合ったりする場を設けたりすることにより、表現力の向上を図る。 ・国語などで、テーマを決めて自分の考えを書く機会を増やしたり、授業の振り返りで学習の要点などをまとめたりして、分かりやすい文章を書くことができるよう、繰り返し指導していく。